4. 旧今井家の住宅について

現在残っているこの建物は、今井氏が、「駿河屋」の屋号で呉服商を営んでいた頃の古民家です。主屋は、明治22年から明治25年前後に立てられたと推定されています。また、奥の蔵は明治25年に建てられた事が、棟札によって判明しています。ここは、江戸時代には、旅籠「油屋」の跡地でもあり桂小五郎や山本覚馬、清河八郎などが宿泊した事が宿帳により解っています。

5. 佐倉市立美術館エントランスホールについて

1918年（大正7年）に川崎銀行佐倉支店として建てられた後、1937年（昭和12年）に銀行移転に伴い佐倉町に売却され役所として使用され、その後1971年（昭和46年）まで市役所として使用されました。その後幾度かの用途変更を重ね、1991年（平成3年）に千葉県有形文化財として指定されると、1994年に佐倉市立美術館のエントランスホールとして再利用されるに至っています。旧川崎銀行佐倉支店の設計者は、矢部又吉です。正面フォサードは、ヨーロッパの古典建築の規範を取り入れ、左右対称となっていて、石積を模したレンガ積の意匠は、変化に富んでいて見応えがあります。

6. 武家屋敷群と古径ひよどり坂について

佐倉に残る江戸時代の武家屋敷のうち、旧河原邸、旧但馬邸、旧武居邸の三棟が公開されています。県指定の文化財である旧河原邸の室内には、当時使用されたであろう調度品などが、展示されており、その頃の武士の生活を偲ぶことが出来ます。また三棟とも華美を排した質素な造りをしており、さらにそれぞれの石高の違いによる生活感の違いも読み取れ、それらの違いを探索してみるのも、充分に大きな魅力である。更に近くには、ひよどり坂という古径もある。当時の侍の気分で、この坂を歩いて見るのも一興です。

7. 最後に

今回佐倉の街並みを歩いて見て感じたことは、近代化された通りや住宅地のなかでも、一歩入った旧道沿いには、佐倉城址を中心とした城下町の香りがまだまだ色濃く残っていました。江戸時代からの北総地域の中心であった佐倉の町並みや武家屋敷に、いにしえの空気を感じながら、佐倉の地を後にしました。